

今皆様が熱海を想像して思いつくものは何ですか。きっと海、温泉、花火が思いつくのではないのでしょうか。熱海に来る観光入込客数を調べてみました。このグラフは2001年からのデータです。御覧のとおり2011年に東日本大地震の関係があり、お客様が急激に減ってしまいました。そこから2012年を境に熱海は大幅に観光入込客数が増加しV字回復をしました。なぜ、熱海はV字回復ができたのでしょうか。2011年前までは、イベントでの集客が中心でしたが、路線変更しメディアへの露出を増やすためのプロモーションに力を入れることに転換しました。熱海市が「ADさんいらっしゃい！」という事業を立ち上げ、熱海市職員の山田さんが映画やドラマ、バラエティー番組の撮影などを全面的にサポートし、熱海のことをTVなどでPR活動をしてもらい、V字回復を遂げたのちに2015年には300万人まで入込客数が回復しました。

このグラフは訪日外国人旅行者数出国日本人数の推移を表したものです、ご覧のとおりインバウンド数が増えています。2019年には3,118万人を達成しています。政府は、今年2020年には4,000万人の目標を掲げています。インバウンドでお客様が増えると予想できますが、オリンピック閉幕後、お客様の数が減っていくかもしれません。熱海に同様な現象が生じるかもしれません。

宿泊客数の推移を調べました。グラフを見て分かるように、年々減少していましたが、観光入込客数のV字回復のおかげもあり2011年を境に徐々に回復していき、日帰りのお客様だけではなく、宿泊客も増加しています。しかし、宿泊者数が増加しているのにもかかわらず、このグラフを見て分かる通り宿泊施設数が減少しています。

この理由としては、観光入込客数が減れば、宿泊者数も減り宿泊者数が減れば宿泊業における収入も減ることになるため、経営不振に陥り宿泊施設数が減少したと考えられます。また、経営不振に陥ったホテル・旅館を買収し、大手企業がグループ化して本社を他県にしているため、熱海市に資金が落ちるのではなく、本社に落ちてしまい結果的に熱海の経済発展に寄与していないと考えられるので、宿泊施設以外に何か熱海市を支えるようなものがないか考えました。

そこで目を付けたのは橙です。橙の生産量は熱海市が日本一なので熱海を活性化するために生かせるのではないかと思います。しかし、橙はすっぱくて直接食べられません。橙で酢を作ったり、薬に使われたり、縁起のいいものとして鏡餅や正月の飾り物などに使われています。しかし、近年橙の需要が減っています。収穫されずに落ちてしまう橙も多くあります。橙は熱海を支える資源としては厳しいと考えられます。

そこで熱海の安定した資源は何だろうと考えたとき、レモンを考えつきました。なぜレモンなのかというと、日本のレモンは熱海が発祥の地なのです。橙はそのまま食べることや加工が難しく活用しにくいものですが、レモンは様々な活用方法があり無限大です。風邪やがんの予防や肌の調子を整えてくれる効果、疲労回復などの効果があります。野菜よりもビタミン含有量が多く、美容や健康に作用する効果が期待されます。

しかし、新たな資源として目を付けたレモンは熱海市ではほとんど生産されておらず出荷数がほとんどありません。このランキングをみてもわかるように、ランキングのトップ10にすら静岡県は入っていません。私たちは、全国に熱海はレモン発祥の地だということを認知してもらうためにはどうしたらいいのか考えました。

① 学校でレモンを育てる

2019年3月18日熱海高校の敷地内にレモンの植樹をしました。熱海市農業委員会、
あいら伊豆農業協同組合、西島洋一さんにご協力いただきました。

② 地域でレモンを育てる

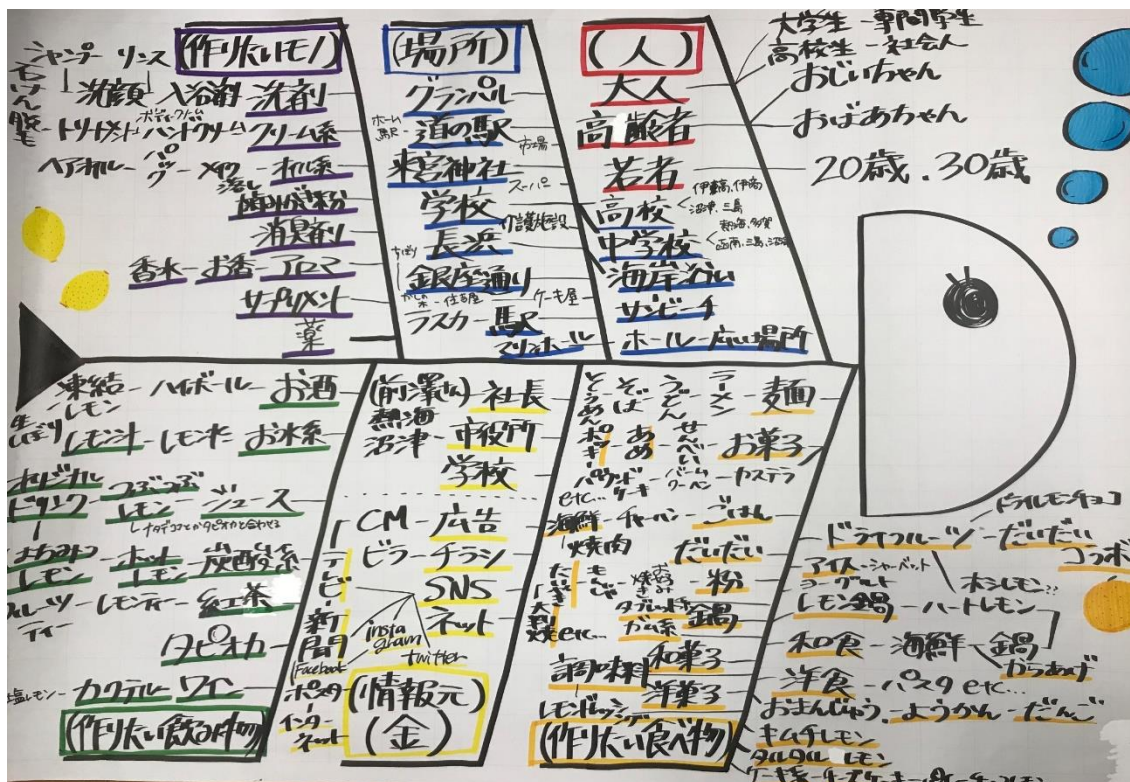
2020年3月中下旬に熱海市立多賀小学校・中学校に植樹します。

③ 熱海レモンを使った商品をつくる

パン樹久遠にて熱海レモンラスクの開発、チボリちぼーにて熱海レモンクッキーの開発に挑戦する

④ 熱海レモン祭りを開く

授業にて熱海レモン祭りを開催するために、人・モノ・金・情報の経営資源を軸に KJ 法により意見を出し合った。今回レモン祭りを開催するにあたり、マジオドライバーズスクールに御協力していただき、御指導いただいている。出し合った意見をフィッシュボーンの図にまとめた。



まとめとして、未来の熱海を支えるためには、新たな資源として「熱海レモン」を使い、同じ目的で熱海市民全体が協力して創っていかねばいけません。観光業に頼り、観光客数の増減によって熱海市経済が左右されていいのでしょうか。観光客に頼りすぎず、地盤を固めるように、皆さんで「熱海レモン」をきっかけに熱海を創っていけないでしょうか。





3月 熱海レモンの苗木を小中学校に植樹する

熱海橙農家の収穫を手伝う 熱海レモンの栽培拡大に向け御協力をいただく

4月以降 地域連携を一層強化し、「レモン祭」開催に向け協議

【AHA!プロジェクト】

6月 AHA!プロジェクト成功に向けて始動

3～5人の班を作り「観光資源選定理由」「魅力」「1泊2日のモデルコース作成」などをPowerPointにまとめて各班発表した。

静岡新聞 NEWS ツイート シェア 0

伊豆ツアー、熱海高生考案 12月実施へプロジェクト始動
(2019/6/1 08:18)

熱海市の県立熱海高は31日、同校ビジネス観光類型の3年生24人が伊豆地域を巡る1泊2日のツアー旅行の企画から実施までを体験する「熱海高校生エージェンターAHA（アハ）！プロジェクト」を始動した。第1弾の取り組みとして、同校で生徒が考えたツアープランのアイデア発表会を開いた。

生徒がグループに分かれ、市内外の著名な観光スポットの訪問やホテル・旅館への宿泊を組み合わせた「伊豆半島のパワースポットと歴史を巡る1泊2日」「伊豆半島ぐるっとジオ巡りツアー」などの企画を説明した。

プロジェクトの実施に協力するニコーバス（熱海市）の担当者・関政則さんは生徒に無理のない旅程の組み方や、テーマ設定に沿った訪問先選びなどをアドバイスした。

発表を行った井上天海さんは「若い人たちに伊豆のことをもっと知ってもらえるようなツアーを実現したい」と語った。

ツアー実施は12月の予定。生徒たちは今後、本番用のプランの作成や協力企業との交渉、実際の観光資源の確認などを体験し、観光分野での就業に必要な知識やビジネスマナーなどを学ぶ。



伊豆を巡るツアーのアイデアを発表する生徒＝熱海市の県立熱海高

7月 （下見）選出した観光資源を実際に訪れ、魅力を発見し、チラシを作成

ツアータイトル
高校生がおもてなし 伊豆ジオの魅力に 浸る初春ツアー
催行日時
2020年1月14～15日 (令和2年) (火～水)

ターゲット
60歳以上の高齢者の 方々
募集人数
最大35名 (最少催行人数15名)



日程・価格 案

Day1	Day2
- 熱海駅(集合) - 来宮神社 - 城ヶ崎海岸(昼食) - 竜宮窟 - 馬ロック - 西伊豆クリスタルビューホテル(宿泊)	- 堂ヶ島 - 達磨山 - 浄蓮の滝(昼食) - 熱海駅(解散)
	値段：～¥23,800

予約・販売方法

熱海高校生ホテル予約受付で使用した atamihshotel@gmail.com にて予約受付。

応募者多数の場合抽選 抽選後、ニコーバスにて代金のお支払い

募集期間

2019 年 11 月 11 日～12 月 13 日

現地実習



広報活動



来宮神社にてガイド実習



天城トンネルにて視察

募集締切

11 月 11 日の募集開始日から 1 週間が経過したが、応募者はわずか 4 人という状況であった。そこで、生徒自らが積極的に広報活動を行った。広報活動は、熱海駅周辺の仲見世商店街、平和通り商店街にある個人商店、タクシー会社、会員制リゾートマンション、熱海市観光協会、熱海市役所などでのチラシの掲示とツアーの概要説明をした。

また、熱海市役所では熱海市のフェイスブックにて AHA! プロジェクトの紹介をしてもらった。ニコーバスでは、地元熱海新聞の広告欄に募集広告を載せてもらった。

昨年度まで実施していた熱海高校生ホテルは 3 年目が終了し、3 年目の応募者数は約 100 人おり、当日参加できたのは約 40 人である。宿泊施設のキャパシティ、また生徒の実習対応人数としてどうしても抽選により参加者を決定せざるをえなかった。この落選してしまったお客様にも今回のツアー案内をメールにて呼び掛けた。

熱海高校の教職員を通じ、御親族の方への呼びかけや、以前本校に勤務していた職員にも呼びかけを行った。また、進路関係でも本校の取組を紹介することで、学校への関心を深めていただくきっかけにもなるため呼びかけた。

このツアーの取り組みを全校生徒にも理解をしてもらうために、全校生徒にチラシを配布した。

募集開始から2週間が経過したが、目標としている15人を集めることが困難と予想できたため、当初予定していた23,800円からサービスを維持したまま、価格を下げられないか検討した。検討テーマとなったのは、生徒が学習の場として添乗員実習を行うバスの費用を学校で負担できないかという面である。お客様の参加があつてこそ実習が成立するとの意図が根底にあり、学校でバス代を負担できればツアー料金を大幅に下げることができるとの交渉の結果、23,800円から17,500円に値下げすることができた。お客様に負担していただく価格は、ほぼ実際にかかる経費（宿泊費、食事代、入場料など）であり、通常売り出されているツアーでは実現不可能の価格である。

価格を下げるため、募集期間を12月26日まで延長をすることにした。延長した結果11組27人の参加応募があつた。

おもてなし提案

生徒は参加していただけるお客様に対し、おもてなしについて授業にて検討を重ねた。

① ツアーコースの設定

7月の下見では、最終的に本番で訪問する観光資源以外に、下田ペリー通り、天城越え（天城トンネル）、伊豆の長七美術館、熱川バナナワニ園、白浜海岸など候補地を視察した。事業では実際に生徒が訪問した経験をもとに、参加されるお客様の年齢層や見学でいる時間、バスで移動時間等を考慮して決定した。

② 宿泊場所の設定

宿泊場所の設定に関して、下記の5点の条件をもとに検討した。

- (1) 宿泊先に支払う予算として12,000円以内に収めたいと計画していること
 - (2) ツアーコースの経路途中であること
 - (3) 最大35人のお客様を集客できる施設であること
 - (4) 風呂、食事に魅力を感じられること
 - (5) 一部屋最低2人以上とするため、2名以上で宿泊できる部屋を用意できること
- この条件をもとに2つの宿泊場所が候補となった

(ア) 御宿 しんしま （民宿）：地区 下田

民宿の場合、1館貸切が可能なため自由に使用することができる。

- (1) 宿泊費10,000円以内
 - (2) ツアーコースの経路途中である
 - (3) 最大35人のお客様を集客できる施設である
 - (4) 食事は交渉により対応できるが、お風呂は普通のお風呂といった感じ
 - (5) 主に畳の部屋であり、和室の部屋
- 部屋の窓からの景色はあまり期待できない

※ 夫婦で経営しており、とても暖かい雰囲気の旅館である。

(イ) 西伊豆クリスタルビューホテル（ホテル）：地区 松崎

ホテルの場合、良い設備でありサービスも期待できる

- (1) 宿泊費10,000円以内
- (2) ツアーコースの経路途中である

- (3) 最大 35 人のお客様を集客できる施設である
- (4) 食事はバイキング、お風呂は大きく魅力的
- (5) 部屋は和室、洋室、和洋室がある。きれいで広い

部屋の窓からの景色はオーシャンビュー

※経営者が 1 月から変更される

生徒がプレゼンテーションをするような機会はない

1 日目と 2 日目の行程を考えると、下田で 1 泊すると 2 日目の移動距離が長くなり、行程的に厳しくなる。今回は (イ) の 西伊豆クリスタルビューホテルに決定した。

③ 昼食場所の設定

伊豆に来たのだから、伊豆の食材を食べてもらいたいということを前提として昼食場所を設定した。熱海の「イカメンチ」、稲取・下田の「金目鯛」、天城の「いのしし料理」、「わさび料理」など検討した。宿泊する場所が松崎であるため、その行程を踏まえた場所での昼食場所として考えた。また、参加されるお客様が喜んでいただけるメニューでなければならない。地場産品をメインに考え、最終的に「金目の煮け」、「獅子鍋」、「わさび丼」に決定した。

④ 土産の選出

熱海では現在、「熱海プリン」、「四角いシュークリーム」「ボンボンベリーのいちご商品」などテレビで取り上げられ人気スイーツが有名になっている。参加していただけるお客様に多くのお土産をプレゼントしたいが、学校が費用を負担することはできない。一方、お客様からいただくツアー代金に含めるとなると、販売価格が上がってしまう。検討の結果、今回のツアーの集合解散場所が熱海駅であるため、お客様には駅周辺で販売している有名土産品に関しては直接買っていただくことにした。

このツアーで対応したお土産について以下の 3 点があげられる。

(1) 生徒（学校）側からプレゼントするもの

熱海高校開発商品「熱海夢みぐさ～さくらまんじゅう」のプレゼント

参加者 1 人につき、1 箱

(2) ツアーの中で、ツアー代金に含めるもの

わさび田を見学後、天城特産のわさび漬けをプレゼントする

(3) お客様に商品紹介をして、購入を促すもの

ツアー当日、竜宮窟にて観光資源を見学後、寒い外からバスに乗車する際、市川製茶様から御提供の「ぐり茶」を使い、温かいお茶の提供と小戸橋製菓様から御提供いただいた「猪最中」を配った。バスの中で、生徒が説明し、「猪最中」の注文を受け付け、2 日目の帰りのバスにて注文した商品を渡す形をとった。

※ 上記 3 点以外に地元企業さんからの協賛品の御協力をお願いした。

アカオリゾート公国様から「アカオローズハーブガーデン」の入場無料券、KKR ホテル熱海様から「入浴無料券」、ウェルネスの森伊東様から「入浴無料券」、暖香園様から「ぐり茶」、フジノネ様から「桜えびの舞」を御提供いただいた。この協賛品の狙いは、今回のツアー参加者が熱海・伊東にまた来てもらいたいという「リピート」を狙ったもの。協賛品は生徒が企画した「抽選会」をチェックアウト時に行い、2 日目のバス車内にて商品を配布する。

⑤ 生徒の役割

リーダー班 5 人を各班のリーダーとして 5 グループに分かれておもてなしを行う。すべての生徒がバス車内にてバスガイド（添乗）する。また、観光資源（観光地）にてツアーガイドを行う。

【1 日目】

リーダー班	熱海駅受付（お出迎え）から来宮神社までのバスガイド。
稲葉班	来宮神社でのツアーガイドおよび城ヶ崎海岸までのバスガイド
齊藤班	城ヶ崎海岸でのツアーガイドおよび昼食会場（ぼら納屋）の案内
杉田班	昼食後、竜宮窟までのバスガイドおよび竜宮窟のツアーガイド
向井班	竜宮窟にてバス乗車時の「ぐり茶」と「猪最中」の提供及び西伊豆クリスタルビューホテルまでのバスガイド
森班	西伊豆クリスタルビューホテル到着後、お客様の荷物を運びチェックインの受付後、館内案内

【2 日目】

森班	チェックアウトの受付および「抽選会」の実施、堂ヶ島までのバスガイドおよびバス車内での抽選会商品の配布
稲葉班	堂ヶ島のツアーガイドおよび写真撮影の指示、達磨山までのバスガイド 土肥金山からバス乗車時の「ぐり茶」と「熱海夢みぐさ～さくらまんじゅう」の提供
齊藤班	達磨山ツアーガイドおよび浄蓮の滝までのバスガイド
杉田班	浄蓮の滝ツアーガイドおよび昼食会場の案内
向井班	昼食後から熱海駅までのバスガイド、学校からのプレゼント、お客様が購入した「猪最中」の配布
全員	熱海駅にてお見送り

リハーサル

12 月 17 日火曜日 ニコーバス関様の御指導の下、中型バスを 1 台借り、当日ガイドするツアーの現地を訪れ、ガイド練習をしながら全体的な流れを確認した。



本番 1 日目

生徒は、長浜海水浴場に 8 時 30 分集合し、お客様用（生徒ガイド実習用）バス 1 台と生徒控えバス 1 台に分かれてお客様をお出迎えする準備を開始した。お客様用バスには熱海駅にてお出迎えするグループとリーダー 5 人が乗車し、その他の生徒は生徒控えバスにて来宮神社に直行した。熱海駅では、お客様をお出迎えするために、生徒が立って案内する配置を再確認し、お客様が来るのを待った。予定では 11 組 27 人のお客様が参加される予定であったが、出発時間の 10 時を過ぎても 1 組 4 人のお客様が訪れなかった。担当教諭がお客様に携帯電話にて何度か連絡をして、出発後 15 分に連絡がとれた。キャンセルということであった。この関係でスタートが 20 分遅れてしまった。来宮神社にて、祈祷をお願いしていた

が、全員にて参拝という形に急遽変更になり、生徒も混乱した。しかし、2グループに分かれガイド練習の成果を発揮することができた。計画では伊東マリンタウンにてトイレ休憩を考えていたが、予定時間に20分遅れているため、お客様に通過の同意確認をして、城ヶ崎海岸に直行することになった。このツアーでは、生徒が観光地でのガイドとバスの中でのガイドを受け持つ。事前に、リハーサルにて確認した流れを元に、お客様の様子を見て対応した。城ヶ崎海岸にはつり橋があり、つり橋の近くにはお客様用の大型バス入れない。そのため、お客様には、約1km離れた昼食会場の駐車場にて、生徒用バスに乗り変えてもらいピストン輸送しなければならない。生徒は、生徒用のバスから全員降ろし、海岸にて各自昼食をとらせている間に担当グループがガイドした。城ヶ崎海岸から昼食会場まで帰ってくるときも生徒用バスに乗車していただくが、1回目に乗車できなかったお客様が歩いて向かってしまった。昼食会場での昼食の説明も不十分であったように感じる。生徒の昼食は、食事代は自己負担なため、どこからも資金を調達することができず、各自持参させたため、お客様と同じ食事をとることができなかった。昼食会場を後にし、下田開国みなとにてトイレ休憩を取り、竜宮窟に向かった。竜宮窟では2グループに分かれ、お客様の健康状態に合わせてガイドする形にした。竜宮窟から今回のツアーのみどころでもある黄金崎に向かった。車内では小戸橋製菓の「猪最中」と市川製茶の「ぐり茶」を生徒が提供した。お客様はとても喜んでくれた。「猪最中」は車内にて注文を賜り、明日の帰りの車内にて配る。黄金崎で夕日を見てもらいたかったが、バス車内で日没を迎えてしまったのが残念であった。この後、お客様を西伊豆クリスタルビューホテルに御案内をした。ホテルでは、ホテルで出迎えをするグループが待機しており、お客様の荷物をチャックインカウンターまで運ぶ。ここで初めてお客様は今日泊る部屋番号を伝えられた。



生徒は、チェックインカウンターを片付け、1日目の研修は終了となった。生徒は予算の関係でお客様と同じホテルには宿泊できなかった。生徒の宿泊場所は松崎高校の合宿所をお借りした。合宿施設は、1階が男子、2階が女子と中央階段で分けられており、お風呂も洗面所も男女別々であった。また、エアコンも完備されていた。食堂もあり、食事をするスペースはあったが、料理することはせず、近隣にあるスーパーやコンビニで各自食事を入手した。

本番2日目

朝、7時に森班はお客様のチェックアウトの受付をするため、他生徒より出発時間を早め松崎高校を出発した。西伊豆クリスタルビューホテルでは、チェックアウトカウンターの設置後、抽選会の準備を行った。チェックアウトではお客様から鍵を受け取り、抽選をしてもらい、抽選カードを持ってバスに乗車してもらった。お客様が全員乗車したのを確認して、堂ヶ島までバスガイドを行った。堂ヶ島到着後、待機していた全生徒は、お客様と一緒に記念撮影をした。堂ヶ島では遊覧フェリーを予定していたが強風のため運航でき

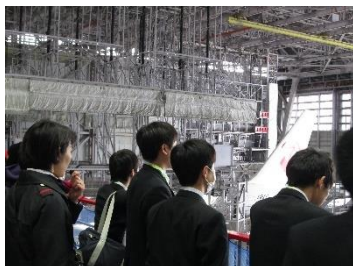


ず、写真撮影のみとなった。今回フェリーに乗船できなかったため、余裕の時間が 30 分確保でき、急遽「土肥金山」に訪問先を変更した。「土肥金山」では施設見学と砂金取りの体験ができるが、両方とも行う時間は確保できないため、今回は砂金取り体験のみ実施した。ガイドを担当した稲葉班と全体のリーダー森らは施設の御厚意により砂金取りを体験させていただいた。体験後、達磨山に向けてバスは出発した。ここで、「ぐり茶」「熱海夢みぐさ～さくらまんじゅう」の提供を車内にて行った。さくらまんじゅうの紹介と共に、まんじゅう販売も同時に行った。達磨山到着後、別の班がツアーガイドを行ったが、雨は降っていなかったがあまり天候が良くなく、達磨山からの富士山を望むことができず、とても残念だった。浄蓮の滝では、専門のガイド 2 人をお願いし、約 30 分のガイドをしていただいた。担当の生徒もジオガイドと共にお客様と一緒に浄蓮の滝とわさび田の見学をした。しかし、このツアー参加の平均年齢は約 70 歳前後であり、浄蓮の滝を見学に行く長い階段は厳しいものがあつた。参加されたお客様全員が何事もなくお戻りになったことが救いであつた。この後、食事会場へ案内し、「猪鍋」と「わさび丼」を召し上がっていただいた。生徒は、同じ会場で予め注文をしてあつた食事をとった。この食事代金は、ニコーバスさんの御厚意で負担していただいた。バス乗車後、熱海駅へ向かう途中、函南ゲートウェイに立ち寄り休憩した。昨日注文を受けた「猪最中」と学校からプレゼントする「熱海夢みぐさ」、「わさび漬」を配布した。お客様はとても喜んでいった。熱海駅到着後、全生徒でお見送りをした。その際、1 日目来宮神社で撮影した写真と 2 日目に堂ヶ崎で撮影した写真を 1 組に 1 枚プレゼントした。



【JAL 工場見学】

令和 2 年 1 月 28 日（火）



【日本外国語専門学校見学】

同日



取り組みの成果

(1) 生徒の変容

【起業家育成プロジェクト生徒の感想】

アンケート結果

- ① 法人会による出張授業は楽しかったですか

Y e s 7人 ・ N o 10人

- ② 会社設立の仕組みや税金について理解できましたか

Y e s 7人 ・ N o 10人

- ③ 苦勞した点や困った点がありましたか

Y e s 9人 ・ N o 8人

- ④ 夏休みに販売実習（ラスカ）の感想

- ・大変だった
- ・良い体験だった
- ・お客さんがこっちを向いてくれなかった
- ・無事に商品が売れてよかった
- ・商売の難しさを知った
- ・大変だったけど、働く楽しさや大変さを知った
- ・完売してよかった

- ⑤ 法人会の方にメッセージを書いてください（感想・およびお礼）

- ・貴重な経験を、ありがとうございました（大多数）
- ・普段聞けないことを聞けて良かった

- ⑥ 今回の授業を聞いて将来、地元（熱海・伊東）で起業したいと思いますか

Y e s 2人 ・ N o 15人

【AHA！プロジェクト生徒の感想】

- ・もっとはつきり話せば伝わったかも
- ・お客様が喜んでくれた
- ・夕日が見れなかったことが後悔している
- ・もう少し周りを限定して一カ所一カ所ゆっくり見れるようにしたかった
- ・天候に左右されることが多く、もう少し影響されないような場所を入れてもよかった
- ・笑顔で話しかけてくれたのが嬉しかった
- ・みんな優しかった
- ・事前にもっとやるべきことがあったように思える
- ・森君だけにやたらと仕事が偏っていた
- ・お客様に感謝されたことが嬉しかった
- ・今回のツアー企画に参加できたことが嬉しい
- ・お客様と世間話をすればよかった
- ・お客様への対応に差が出てしまった
- ・お客様を城ヶ崎海岸からばら納屋まで歩かせてしまった

- ・知識不足で質問に答えられなかった
- ・みんなで協力できたことが嬉しい
- ・みんなで楽しく協力できた
- ・一人ひとりのお客様に寄り添うことをしたかった
- ・私たちにお客様から話しかけてくれ、労いの言葉をかけてくれてとても嬉しかった
- ・「すごいね、頑張れ」など言ってくれ、笑ってくれた
- ・リハーサルをもう少し、当日に近いときにやってもっと完璧にしたかった
- ・ツアーの最後にすごく良かったと言っていた
- ・あたふたしてしまった様子をお客様に見せてしまったことを反省している

【JAL 工場見学 生徒の感想】

- ・飛行機の説明が難しかった
- ・飛行機を間近で見れてとても勉強になった
- ・普段できない体験をさせていただいた

【日本外国語専門学校見学 生徒の感想】

- ・様々な学科があることを知った
- ・オープンキャンパスに参加してみたいと思った
- ・いろいろな話を聞いて、楽しそうで行きたくなった
- ・ブライダルのところがすごくよかった。ディズニーホテルで働けるなんてすごい
- ・色々な国の言葉を話せる人がいて感動した
- ・思ったより広くてディズニーや JAL のドアなど実際に基づいたことを学べるからとても興味が持てた。英語も ALT が 4 人いて、クラス分けなども徹底していた
- ・もう一度見学したいと思った

(2) 教員の変化

教員が様々なことに挑戦をさせる機会を作り、決して逃げ出すことのできない究極の現地実習を生徒にさせる。実社会で即戦力として生かせる技術と精神力の育成を次年度以降も継続的に目指して実施したい。そのためには教員間の連携が必須である。

(3) 協力していただいた企業の方々の声

【AHA！プロジェクトお客様の感想】

- ・生徒さんがとてもおびおびと明るくしていたので、こちらまで楽しくなりました。とても楽しかったです
- ・バスの中、ホテルの食事・お風呂とてもよかったです
- ・とってもみんな元気でよかった。2日間楽しく参加することが出来た
- ・バスの中でのお茶・お菓子のサービスは良かったです
- ・79歳になりますが、割合と見学する所もあり、高校生も親切にしてくださいありがとうございました
- ・皆さん一生懸命で好感が持てたが、ちょっと勉強不足の所も……。もう少し観光地の色々な勉強をした方が良い
- ・ツアーはよく行くのですが高校生が一生懸命おもてなしくださり荷物を運んでくださったり、孫のような子供達に頑張れと応援したくなるような感じで行動しました。このような企画は他校には余りないのでそれを続けていかれる先生にも頭が下がります

- ・伊豆半島一周は少しきついなという感じもします。タイムリーな話題をもっと取り上げてくれたらもっと地元のPRになった
- ・地元の食事が大変美味でした。温かいお茶のサービスがうれしかった
- ・全員が協力して頑張っていたのが良かった。一泊二日でよく考えられたコースだと思った
- ・夕日に間に合わず残念だった。不慣れな中であつたが良くやったと思う。楽しかった
- ・大変よかった。皆さんが今後大きく成長されることを期待しています。高校生らしさがウリになります
- ・できれば次の機会でも皆さんと会いたいですね！
- ・普段運動不足だったので良い運動となり良かったです。天気も良くありがとうございました
- ・バス内での説明をもう少し冗談を交えながら話してくれると聞きやすいかなと思います
- ・楽しい車内の雰囲気です。時間がとても短く感じました。もう少し説明等を聞きたかった。楽しい旅をありがとう
- ・あらためて高校生の新鮮なパワーをもらいました。満足でした

今後取り組むべきこと

- ・AHA!プロジェクトと熱海高校生ホテルの同時開催を検討
- ・この木！何の木！レモンの木！！プロジェクトの継続
- ・起業家育成プロジェクトを税金に関係した分野にシフト
- ・新商品開発
- ・フードグランプリにエントリー
- ・観光甲子園にエントリー
- ・うまいもん甲子園にエントリー（家庭科と連携）

福祉類型

対象生徒：21・31HR 福祉類型選択者
指導教員：永吉優里・福田千恵

地域連携実施協力者

熱海市社会福祉協議会、姫の沢荘、
熱海伊豆海の郷、うさみの園、
いとうの杜、ゆずの里、みはらし、
奥野苑、ゆうゆうの里、十字の園、
オレンジデイサービス、食楽工房、
リンクライン、青いかば旅行社、
smile 熱海、熱海市立多賀小学校

取り組みの概要

現在、熱海市の人口は減少傾向が続いている。しかしながら、65歳以上の高齢者人口は年々増加しており、平成31年の4月1日現在では、47.2%と熱海市に住んでいる人の約2人に1人は高齢者であるという現状である。熱海市の「高齢者福祉凝視の基礎調査」では、高齢者のいる世帯の中でひとり暮らし世帯が最も多いことが示されている。

このような熱海市の現状から地域の見守り支援の必要性や高齢者も参加できる社会づくり、また支援者の育成などが課題であると考えられる。

そこで、本校の福祉類型では、観光産業が「まち」の根幹産業である熱海市において、それらの市の特色を活かし、近隣の福祉施設や企業と連携し、福祉のまちづくりと地域社会の将来を見据えた専門的福祉従事者の育成を目的とした取り組みを行うこととした。

また、Quality of life の観点から、高齢者や障害者などの福祉・医療支援を必要とする人々が健常者と変わらず、充実した人生を楽しむことができるような支援のあり方を模索するため、以下のような取り組みを実施した。

主な取り組みは、(1) 障がい者の理解と支援方法、実践の研究、(2) 高齢者の理解と支援方法の研究、(3) 熱海観光福祉マップ作成、(4) 介護食商品開発である。これらは、今年度で完成されるものではないか、今後も継続的に研究活動を行っていく。

取り組んだこと

(1) 障害者の理解と支援方法、実践の研究

① 交流授業

近隣の小学校の特別支援学級と5月～11月まで月1回程度、交流授業を実施した。交流授業では、特別支援学級の児童と高校生がペアとなり、染色体験及び販売体験を行い、高校生が児童の作業補助やソーシャルスキル向上のための補助を行った。

本校生徒は、この交流授業で特別支援学級の児童との交流を通して、障がいの特性の理解及び支援方法の検討を目的としている。

＜実施内容及び日時＞

	日 に ち	時 限	内 容	学 年
1	5月27日（月）	3・4限目 11:30～12:15	顔合わせ・グループの発表・ガイダンス	3年
2	6月17日（月）	3・4限目 11:30～12:15	タマネギの皮で染色① 布を輪ゴムで縛る	3年
3	7月8日（月）	3・4限目 11:30～12:15	タマネギの皮で染色② 染色した布を洗う・干す	3年
4	7月18日（木）	（短縮）3・4限目 11:00～12:00	タマネギの皮で染色③ アイロンがけ・製品にするための活動	2年
5			新しい染色液で挑戦① 布を輪ゴムで縛る	
6	9月9日（月）	（短縮）3・4限目 11:00～12:00	新しい染色の液で挑戦② 染色した布を洗う・干す	3年
7	10月9日（水）	3・4限目 11:30～12:15	新しい染色液で挑戦③ アイロンがけ・製品にするための活動	2年
8	10月29日（火）	3・4限 11:30～12:15	製品にするための活動 （袋詰め・シール貼り）	3年
9	11月11日（月）	3・4限目 11:30～12:15	販売練習：お金のやり取り・言葉遣い	3年
10	11月16日（土）	3・4限目 11:00～12:00	小学校のバザーの見学	3年

※第5回は、小学校のみで実施



②施設見学

隣県にある障がいのある方を雇用している会社見学を行った。障がい者福祉の理解及び障がい者雇用促進について理解を深めることを目的とし実施した。また、障がい者の自立支援の方法や本校と連携した取り組みをも視野に入れ活動を行った。



(2) 高齢者の理解と支援方法

①地域施設での実習

介護の基本業務を見学・体験するとともに、利用者との交流を図ることを目的とし、2年生で11月に5日間、3年生で6月に5日間の計10日間の実習を行った。

本校では、介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級程度）の修了を目指し、地域で活躍する福祉従事者の育成を行っていることから地域の訪問介護事業所でも5日間のうち1日実施している。しかし、今年度は、感染症予防ため入所施設と併設している施設でのみ実施した。

<3年生の実習日時>

・令和元年6月17日（月）～21日（金） 概ね午前9時から午後4時まで

<3年生の実習先及び実習内容>

	実習施設	種別	実習内容
1	姫の沢荘	特別養護老人ホーム	介護補助（排せつ、入浴） 食事介助 配膳下膳の補助 トイレ誘導
2	奥野苑	特別養護老人ホーム	
3	うさみの園	特別養護老人ホーム	
4	ゆずの里	特別養護老人ホーム	
5	みはらし	介護老人保健施設	
6	伊豆高原十字の園	特別養護老人ホーム	

<2年生の実習日時>

・令和元年11月18日（月）～22日（金） 概ね午前9時から午後4時まで

<2年生の実習先及び実習内容>

	実習施設	種別	実習内容
1	熱海伊豆海の郷	特別養護老人ホーム	コミュニケーション中心 整容の補助 配膳下膳の補助 トイレ誘導
2	奥野苑	特別養護老人ホーム	
3	うさみの園	特別養護老人ホーム	
4	いとうの杜	特別養護老人ホーム	
5	みはらし	介護老人保健施設	
6	ゆうゆうの里	特別養護老人ホーム	

②実習報告会の開催

6月及び11月に実施した実習報告会を2・3年合同で開催した。また、実習報告会には、実習先の施設の職員の方々に来校いただき、実習報告をした生徒に対してアドバイスをいただいた。2年生は、次の実習での課題探しを行い、3年生は就職先での仕事に活かすことができるようにそれぞれの課題について検討しあった。

③いきいきサロン参加

熱海市内は、坂が多く、足腰が弱ってくると移動や外出が困難な地域が多くある。そのため、地域の高齢者の方々が家に引きこもってしまう状態にならないよう地域でサロンを開催し、外出の機会を確保したり、介護予防に努めたりする場としている。しかしながら、サロンについての情報提供に課題がある。そのような課題解決のため、熱海市社会福祉協議会と連携し、より多くの地域住民に知ってもらえるようなマップ作成を行い、地域のサロンの活性化につながる取り組みを行うこととなった。

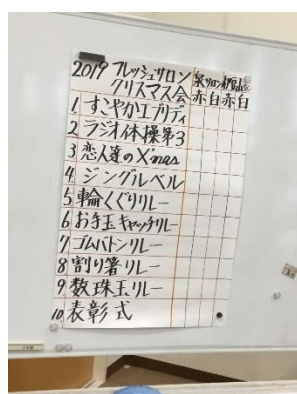
今回は、いきいきサロンマップ作成を目的とし、情報収集のため、地域で行われている高齢者サロンに参加した。

熱海市には、熱海市社会福祉協議会が運営又は支援しているサロンとして、生きがい活動支援通所事業、介護予防体操教室、地域交流・生きがいづくりの3種類がある。生きがい活動支援通所事業は、日中引きこもりがちになっている高齢者が対象で体操や脳トレーニングを行い、介護予防の事業である。介護予防体操教室は、一般高齢者施策として実施していた筋力パワーアップ教室修了者が教室終了後も継続して体を動かしたいとの要望があったため、引き続き社会福祉協議会の体操スタッフを派遣し支援している教室である。地域交流・生きがいづくりのサロンでは、地域にお住まいの方たちが中心に外出が困難になり家に閉じこもってしまう状態に陥る状態を予防するために活動している。今回は、以下の2つのサロンに参加した。

<参加したサロン>

・令和元年 12 月 17 日（火）

サロン名	生徒参加人数	サロンの概要
泉フレッシュ	7 人	種類は、介護予防体操教室。 体操や筋力アップがメインである。 利用者も体を動かしたい方々であり、比較的、体力や筋力がある方が参加している。
友遊サロン	8 人	種類は、生きがい活層支援通所事業。 体操や脳トレーニングを行い、介護予防を実施している。 利用者は、一人暮らしの女性が多く、御高齢であるが比較的、元気な方が参加している。





(3) 熱海観光福祉マップ作成に向けての情報収集

①子ども食堂参加及び桃陵祭での実施（6～1月参加、10月26日開催）

子ども食堂とは、熱海市に住んでいる子どもやシニアと学びや食を通じて世代間のコミュニケーション作りをする場として活動している。月に2回開催されており、シニアの方が中心となり、子どもたちに遊びや調理の支援を行っている。

この子ども食堂は、低価格又は無料で子どもたちに食事を提供するコミュニティの場となっている。また、この活動は、子ども支援の一環として近年、全国的に実施されており、子どもの貧困問題から「子どもたちの食事提供の場」や「子どもの居場所づくり」として期待されている活動である。

観光産業が「まち」の根幹産業である熱海市では、土日祝日など学校が休みの時に保護者が働いている家庭が多くある。そのため、このような活動は、この産業を支え、さらに子どもたちの居場所づくりを推進していることから本校でもこの活動の役割を一部担うことができないかと考え、昨年度から桃陵祭（文化祭）で、子ども食堂を開催している。

また、桃陵祭（文化祭）の子ども食堂では、染色体験で連携している特別支援学級の児童も招待し、高校生が体験活動の指導者となり、地域の子どもたちとの関係づくりを行っている。

②バリアフリー調査（1月14日実施）

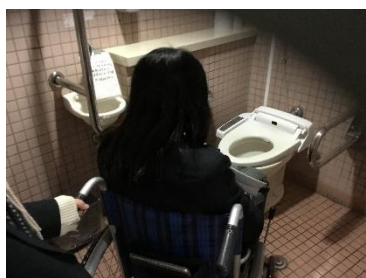
現在、熱海市は観光産業が活性化し、多くの観光客が訪れる市となっている。しかしながら、熱海市の地形では坂が多く、高齢者や障害者など福祉・医療支援を必要としている人々が訪れにくいという印象がある。また、観光マップや観光情報誌などには、高齢者や障害者など福祉・医療支援を必要としている人々も熱海市の観光を楽しむことができるような支援の情報などがあまり記載されていないのが現状である。

そこで、支援を必要としている人たちが欲しい情報を載せたマップがあると、高齢者や障害者など福祉・医療支援を必要としている人々も健常者と変わらず熱海市で楽しむことができるのではないかと考え、熱海市観光福祉マップの作成に取り組むこととした。

熱海市観光福祉マップ作成の初期段階として、近隣の公共施設でバリアフリー調査を行った。障害のある方々が「マップでほしい情報とは何か」を探った。

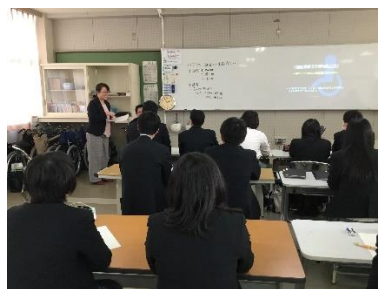
その結果、施設マップ作成や施設の整備を行う時に、利用者の視点に立ち、検討す

ることの重要性を知ることができた。様々な設備はあるものの、その設備のあるところまで行くことができなかつたり、障害者用のマップはインフォメーションに行かなければもらえなかつたりと「あるけれど使えない」ものが多いことがわかった。



③熱海観光福祉マップ作成時の視点について講義（1月15日実施）

②のバリアフリー調査を基に、「バリアフリーの視点」や「障害者が観光をする際に知りたい情報」について発表し、ユニバーサルツアーを提供している旅行会社の代表である車いすユーザーからアドバイスいただいた。また、車いすユーザーから見たバリアフリーの視点についても御講義いただき、熱海市観光福祉マップ作成のために必要な知識を学んだ。



（4）介護食品開発プロジェクト（通年）

①介護食の調理実習（9月10日）及び介護食メニューの検討

介護食士を招聘し、介護食の作り方や工夫の仕方について学んだ。介護食を作る上で大切なこととして、一緒に食べる人と同じものを食べることができること、味が美味しいこと、見た目も美味しそうであることの3点を教えていただいた。

考案したメニューについて、近隣のデイサービスセンターでメニューの栄養バランスや提供について検討していただいた。

取り組みの成果

今年度は、「熱海市の福祉・医療分野へのアプローチ」を視点とし「熱海観光福祉マップの作成」と「介護食商品開発プロジェクト」を大きな柱として取り組みを行った。

熱海観光福祉マップの作成に向け、地域の高齢者や障害のある方々と交流を図る中で、真のニーズ理解することができた。また、福祉団体と連携することにより、「今、求められているマップ」を理解することができた。特にいきいきサロンへの参加では、高齢者の人口が増加傾向にある熱海市においては重要な活動の一環であることを学んだ。しかしながら、それらの活動について多くの高齢者にわかるようなマップがなく、それらの作成に対するニーズがあることも理解した。そのため、第一段階として「いきいきサロンマップの作成」、第二段階として「地域の福祉マップの作成」、最終目標として「熱海観光福祉マップ」を作成することとした。

現在は、情報収集を行い、マップの原案を作成した。これらを活用し、多くの高齢者が介護予防や社会参加のために熱海市で元気に暮らすことができるようなアプローチになればと考える。

次に「介護食商品開発プロジェクト」では、フィールドワークなどを通して、介護食を提供する上での利点と難点などの講義をしていただいた。

今年度は、介護食士から助言をいただき、静岡県内のグルメや熱海市・伊東市などの伊豆で有名な物産を使ったものを考案した。しかし、現在の高齢者福祉施設の多くが外部委託で食事を提供しており、考案したものを施設で提供し、アンケートを取るなどが実施できなかった。

そのため、計画を見直し、高齢者福祉施設に食事を提供している業者や、市販で介護食を販売している企業など、高校と連携していただける企業探しを行い、そこから商品化に向けてアプローチをしていくこととなった。

今後取り組むべきこと

今年度の取組は、(1) 障がい者の理解と支援方法、実践の研究、(2) 高齢者の理解と支援方法の研究、(3) 熱海観光福祉マップ作成、(4) 介護食商品開発であった。障がい者の理解と支援方法、実践の研究や理解と支援方法の研究を行うことにより、熱海市観光福祉マップの作成にも活かすことができる学習を行うことができた。そのため、今後は、二点を大きな柱として取組みを実施していくこととする。

第一点は、「介護食商品の考案・商品開発」である。①メニューの考案、②福祉施設での提供及びアンケート、③商品開発に向けた取組みを一年間の取組みとして計画をしていた。メニューの検討では、熱海らしさや福祉施設でも提供できるという特徴を出したいと考えた。

しかし、近隣の高齢者福祉施設から助言をいただき、高齢者福祉施設での食事は外部委託が多く、考案したメニューの提供は難しいとのことであった。

このことから、今年度の計画の見直しを行った。まずは、高齢者福祉施設に提供をしている外部業者や、市販で介護食を販売している企業など、連携していただける企業探しを行い、そこから商品化に向けて取組むこととなった。

そして、第二点は、「熱海観光福祉マップの作成」である。今年度、熱海観光福祉マップの作成に向け研究活動を行ってきたが、観光福祉マップの前に今の熱海市が必要としているマップがあることを知った。そのため、第一段階として「いきいきサロンマップの作成」、第二段階で「地域の福祉マップの作成」、最終段階として「観光福祉マップ作成」という計画の見直しを行った。

今年度は、「いきいきサロンマップ作成」のために、いきいきサロンに参加し、情報収集及びマップ作成の原案を作成することができた。

来年度以降は、①いきいきサロンマップの完成、②地域の福祉マップ作成、③観光福祉マップの情報収集、④観光福祉マップの作成に取り組む予定である。

これらの研究活動を通して、観光産業が「まち」の基幹産業である熱海市を「福祉・医療分野の視点」から見ることができ、生徒たちにとって新しい発見が多くあったと考えられる。観光が注目されている熱海市であるが、実際は、高齢化率が45.8%と老年人口の占める割合も多く、福祉施設等も年々増加している傾向にある。このような「まち」の中で、Quality of Lifeの観点から、高齢者や障害者、末期がん等の医療支援を必要とする人が健常者や観光客と変わらず、熱海市で楽しむことができるような支援のあり方を考える機会はとても貴重なものとなった。

今後も熱海市や周辺地域と連携し、福祉マップや介護食開発に努めていきたい。

対象生徒：「理科課題研究」授業選択者（3年生 15名）
指導教員：土屋善史・森祐介（理科）

地域連携実施協力者
伊豆半島ジオパーク推進協議会

取り組みの概要

東海地震発生の危険が叫ばれてから、早や半世紀が経とうとしている。静岡県は他県と比べて防災の意識が非常に高いと感じる。その根拠として、平成 28 年の「社会基本生活調査」（総務省）によれば、静岡県民がボランティア活動で「安全な生活のための活動」を行う割合は、「8.9%」で全国 1 位である（全国平均 5.0%）。しかし、熱海高校の生徒の実態は、地域防災訓練への参加率は、34.5%と決して高くはない。

理科課題研究の授業では、「防災」をテーマとした授業を展開することで生徒の防災意識の向上を目指した。伊豆半島ジオパーク推進協議会の鈴木雄介様には、5 月より月 1 回 2 時間の講義を行っていただき、ハザードマップを使用した防災意識の向上を目的とした授業を行っていただいた。その中で、初めて目にするハザードマップを使用し学校周辺の土砂災害の危険な場所の確認や、今後、発生するとされている相模トラフを中心とした地震により 3 分で 13m の津波が襲来することなどを学んだ。津波による被害を防ぐためには「高校生の立場から何ができるのか」という視点をもって、地元上多賀地区を実際に歩いてみると、危険な場所やものが多く生徒たちは、非常に驚いていた。生徒がインプットしたことをアウトプットする場として、「目で見て」「肌で感じる」ことをコンセプトに「ひなんのススメ」を生徒の発案により実施することに至った。

実施後の生徒の反省の中では、生徒の防災意識の向上が見受けられた。特に、「地元住民につたえることで生徒自身の意識が変わった」という、反省が多くみられた。また、参加者のアンケート結果からも「高校生の防災意識向上に期待ができる」「一般市民にもやれることがありそうだ」など、双方にとってメリットのある機会となった。

取り組んだこと

05.28 第 1 回講義

鈴木様より、熱海市の発行するハザードマップを用いた土砂災害に関する講義（図 1）や学校周辺の危険個所の確認（図 2）を行った。

図 1. 第 1 回講義の様子



図 2. 学校周辺の危険個所の確認



06.04 第1回フィールドワーク

津波避難において、熱海高校の生徒がよく利用するヨット部艇庫周辺、観光客の多い長浜海浜公園周辺の2か所を中心に海拔30m程度の地点までの避難経路の確認やその道中に見られる危険な場所や構造物の有無などを確認した(図3)。

また、避難において、海拔30m程度の高さまでの所要時間を計測した。

図3. フィールドワークの様子



図4. 第2回講義の様子

06.11 第2回講義(フィールドワークまとめ)

第1回フィールドワークで気づいた、避難経路における危険な場所や構造物、津波避難時に命を守るうえで障害となるものなどをプレゼンテーションソフトでまとめた(図4)。



図5. 第2回講義の様子

07.16 第3回講義(授業のゴール設定)

第2回講義内で作成した、プレゼンテーションの発表を行った。加えて、アウトプットの場面をどう設定するか話し合いのうえで決定した(図5)。



図6. フィールドワークの様子

11.05 第2回フィールドワーク(ツアーコース設定)

「ひなんのススメ」を実施するにあたって所要時間であったり、クイズ等で伝えるべきポイントを相談し、決定した(図6)。



01.21 「ひなんのススメ ～津波避難に関する提言～」を生徒14名(欠席1名を除く)と参加者14名で実施した(図7)。

図7. 「ひなんのススメ～津波避難に関する提言～」当日の様子



取り組みの成果

〈生徒アンケートより〉（抜粋）

Q1. 高校生による「ひなんのススメ」はなぜ行う必要があったのか。

- ・若い人が地域の防災を考えてそれを、地元の人に伝えたことは、とても、住んでいる人に、いい影響にもなって、防災や津波に対して、意識が高まると思うし、避難になっても、ツアーのことを思い出して安全に避難する知識が身についたと思う。
- ・海に近い所に住んでいる私たちは防災意識を高めていかなければならない。そこで地域の方々と連携してお互いに防災意識を高め、これから起こる災害に備えていこうというのが目的だと思います。
- ・高校生は、自分の身を守るだけではなく高齢者や小学生や中学生をひっぱり、逃げるようにするため。
- ・「いつ地震が来てもおかしくない」と言われている地域で、常に防災意識を持つために必要だった。

Q2. 高校生による「ひなんのススメ」を行うことで、地域や参加者にどうなってもらいたいと思いますか。

- ・実際に、津波が来てしまっても、ツアーのことを思い出してもらって、あの時はここが危ない場所だったなとか、注意するところを思い出して、安全に、早く避難してほしいと思います。
- ・日頃から災害の意識をもって、災害が起こった時に危険だと思うところの対処をしたり、対策をしたりして、もし最悪な事態になってもスムーズに避難できて1つ1つの命を大切にできるような、行動をしてくれたらいいと思います。
- ・地域や参加者が避難のススメを通してさらに避難についてをインターネットや本で調べてもらい知識を高め、周りの方々にそれを伝えて情報を共有して、実際に災害が起こってしまった場合学んだことを生かして逃げ切ってほしいと思う。
- ・地元の人には地元について観光の人は旅行先についての避難の仕方に着目して考えてもらいたい。また、その逆も考えてほしい。

Q3. 相模トラフが原因の地震が起こった場合について以下の①～②の設問に教えてください。

①この近辺(熱海・多賀)で、どのような被害・災害が予想されますか。

- ・津波や土砂災害がおこる危険性がある。
- ・津波、地割れ、土砂崩れ、火災、道が崩れて車や自転車などが落ちてくる、家や壁が崩れる、道がふさがれる。
- ・地震や津波が来ると予想される、これがくることによって、ひびのあった家とかが崩れる可能性がある。
- ・海岸沿いでは津波や川の氾濫などが起きる可能性があると思います、山のほうでは地すべりや土砂崩れなどが起き二次災害が起こる可能性があると思います。

②避難するときの注意点としてどのようなことがありますか。

- ・自分の命をまず先に優先する。
- ・高い場所に逃げる（津波の場合）
- ・学校や公園など広い場所へ（地震の場合）
- ・急な崖などからの落石にも注意する。
- ・事前に物が少なかったり古くなってないような安全なルートを探しておく。
- ・避難勧告などが出ってしまったら、ぎりぎりまで待機するのではなく、すぐに避難。
- ・あらかじめ防災バッグの準備、避難場所の確認。
- ・なるべく狭い道よりも広い道を探し高台に避難することがよいと思います。

Q4. 地域にいる人々(生活している人)はどのようなことを学んでほしいと思いますか。

- ・海側に住んでいる人は、逃げる時間が短くて、楽な経路ではないが、避難ビルが近くにあるということを知ってほしい。でもできるだけ高いところに…。
- ・普段歩いているところや、通っているところが災害時は通れなかったりするので、日常の生活の中で、この道はどこが危ないな、崩れるな、とか少しでもいいから確認して、自分の身や地域の人々の安全を確認してほしい。
- ・自分は大丈夫だという気持ちを捨てる
- ・自分の家のものが他人の邪魔になる場合があること
- ・避難ルートの確認を家族や友人を話し合ってもらいたい

Q5. 旅行できた人々(たまたまやってきた人)はどのようなことを学んでほしいと思いますか。

- ・旅行を来る前に、その場所で災害が来ることを想定して、避難ルートを確認してから旅行をしてほしいと思います。
- ・少しでもいいからその町のハザードマップを見ておく。
- ・旅行先だからといって安全であると謎の過信をしているかもしれないから、この機会を通して（こんな場所もあるんだなあ）と思ってほしい。
- ・旅行でしか来ないし、1日2日でピンポイントに災害は起こらないと思っていると思うので、時は関係なく、常に危険にさらされているという自覚を持って旅行先の避難ルートや安全な場所をあらかじめ探しておくことが大切だと知ってほしい。

Q6. 看板やハザードマップを設置、作成している人(市や町などの行政)には、どのような提案ができますか。

- ・ざっくり書くのではなく具体的に場所を示すようなものを作ったほうが良いと思う。土地勘のない人には分かりにくいなと思った。
- ・外国のお客さん向けにも作るべきだと思う。
- ・目線の高さに看板を設置したり、わかりやすく大きな矢印を設置したりして、観光客でも移動ができるようにしてほしいと思う。道が狭い場所や、夜だった場合、見えづらかったりするから、電気（LEDライト）を多く設置してほしいなと思った。

- ・今回、私たちが下調べした際には、看板などがとても見えづらいなと感じました。なので、本当に津波が来たときに、焦っていても理解できるくらいにわかりやすくしてほしいと思いました。
- ・子供や外国の人でも読めるような簡単なハザードマップを作る。
- ・看板の位置は、見落とすことがあると思うので、見やすいところに設置をするべきだと思います。
- ・看板が小さすぎると見つけにくいので大きくしてほしい。
- ・もっとたくさんの看板を設置して、内容はもっと大きな津波がくる内容にしたほうがいい。危険な場所に看板を建てたほうがいい。

Q7. この1年間の「理科課題研究(地震に関する)」の授業を受けて受ける前と後で、自分の考えにどのような変化がありましたか。新たな気付きや変わった考えなど、できるだけたくさん書いてください。

- ・始めは、めんどくさいなとか、上に逃げれば…とか安易な考えをしていたけれど、少しずつ学んだり、歩いてみたりして、こんなところが崩れるの?!とか、見た感じ危ないなと思うところがあり、災害が起きたら…と考えるようになりました。実際ツアーを行い、参加者だけでなく、自分たちも安全な場所や危ない場所を再確認することができました。自分の身を守るだけでなく、災害時には周りも見られるくらい冷静な判断をして、多くの人の命が助かるといいなと思いました。
- ・今まで、ずっと大きな地震が来るといわれて生活してきたけど、ずっと来てなくて「どうせ来ないから大丈夫」と思っていたけど、この授業を受けたことで本当に危ないことが起こるとわかったので、これからは今まで以上に気を引き締めて生活をしていきたいと思いました。この授業で教えてもらったことを自分の周りの人にも教えて地震が起きたときにその知識を使って生き延びてほしいと思いました。私は死にたくないの、この授業でやったことをフル活用して生き残りたいです。
- ・地震の被害に自分があったときどうしたらいいのか今まで考えたこともありませんでした。しかし授業を受けて、もしものことがあったとき自分がどのように行動すればいいのか、又、災害が起こる前に対策として何をしなければならないのかということを学ぶことができました。今までは住んでいる地域の危険な箇所とかを見ようともしていませんでしたが、授業を受けて探してみようと思いました。そして学んだことを知り合いとかに伝えて情報を共有することが大事だということも気づきました。理科課題研究を選択して、このようなことを学べて本当に良かったと思います。
- ・見てはいたけどあんまり気にしていなかった看板とかをしっかりと見てみて、どんなことが書いてあるか知れたし、災害だけが危険なんじゃなくて、それが起こることによって別の危険が増えたりすることを知れて、前より怖いと思い始めて、ちゃんと準備しなくてはいけないなと思いました。
- ・以前は、災害はめったに起きないし、起きたらとりあえず上に走ろうとしか思っていなかった。だけど今は、災害はいつ起こるかわからないし、災害が起こって逃げている最中にも危険なことがたくさんあることも初めて知った。旅行先でも災害について対策し

ようなんて思ったこともなかったけど、どれだけ危険かわかったので、これからは危険な場所、避難場所なども一緒に考えたい。

- ・理科課題研究を通して鈴木さん（講師の先生）や先生たちと防災について学ぶことができました。授業を受ける前は防災の意識が低くどこに避難していいか詳しく知ることがなかったけれど、授業を通して防災の意識を高く持つことができたので良かったです。自分も地域の避難場所のルート確認をしたいし、家族と話し合いたいと思いました。この授業は今後将来役に立つと思うので、学べてよかったです。防災意識を高く持つことができたのでためになる授業だと思います。

＜参加者のアンケートより＞

Q1. 本ツアーについて、総合的にどのくらい満足していますか。

- ・避難経路上で出題されたクイズが避難行動を考える上でポイントを押さえてあり、自分のこととして考えられました。
- ・高校生の意識を高められる良い授業
- ・若い人たちの考え方もわかった。ごく身近な所にたくさんの危険があることを理解した。
- ・もう少し説明ポイント地点が多く、情報量が多いといいなと思いました。夜間の照明についてはなるほどなと感心しました。
- ・頑張ってPRしてくれていました。ただ、まだまだ学べます！もし良かったら静岡県の防災HP、相模湾地震による被害想定を見てみてください。（熱海のものより詳細です）
- ・ポイントごと、注意する点、高校生の意見が取り入れられ、避難経路だけでなく、その他注意すべきところが分かった。ツアーなので、ポイントだけでなく、経路中にも情報を入れた方がよかった。
- ・説明が丁寧でわかりやすい。
- ・地震の発生に伴う津波だけでなく土砂災害についても研究している点（避難経路等）に満足している。
- ・分かりやすかった。
- ・熱海高校生が近年起こりうる災害に対し興味をもって調べていたため。
- ・津波避難のための看板の存在に気づくことができました。また、LEDのライトが細い道沿いに設置されていることも初めて知りました。多くの人が避難すると考えた時、その人たちがどこに収まるのか知れるとさらに良かったです。

Q2. 津波避難への危機感や日常的に避難について考えることにつながりましたか。

- ・LED照明、案内板の矢印の高さなどは初めて意識した。
- ・ブロック塀や石積の様子など「なるほど」と思いました。
- ・今まで考えていたことよりずっと危ないことを自覚した。
- ・身近な道について、避難の観点から見たことがなかったので、改めて道路を見たいと思いました。
- ・自分の地域について、今一度調べようと思います。
- ・改めて問題意識を持つきっかけとなった。
- ・高校生の発表を生かし、市の職員として改善に努めようと思った。
- ・これまでも考えていましたが、さらに考える機会になりました。

Q3. 高校生がこのようなツアーを実施することについてどう思いますか？

- ・次世代の防災リーダーとして地域から期待されている高校生が発信していくことは非常に有意義だと感じました。
- ・防災意識の向上に良いことだと思う。
- ・良い。さらに高校生を中心に子どもたちへゲーム性を持たせて広めていくなど期待ができます。
- ・とても良いことです。是非地域の方（町内ごととか）にも実施してってください。
- ・大変 good！ぜひこれからも実施してください。
- ・高校生自身も学ぶことができ良いと思います。
- ・若い人たちが災害を考えることは大切。
- ・有事の際、大人は地域を出て不在のことが多いです。その時、救命の主力になるのは高校生です。彼らが正しい知識を持ち、正しく積極的に行動できるようになるとありがたいです。
- ・良いと思います。校内だけでなく、市役所などを巻き込んだ活動ができるとさらに良いと思います。
- ・良いと思います。高校生のワークショップだということを忘れずに。津波のワークショップではなくあくまでも学習である点。
- ・避難経路は机上だけでなく実際に歩いて確認することが重要なので良いと思います。
- ・地元の高校生がいろいろな視点で津波避難について考えることは必要であると考えます。
- ・これを機に、災害に対する知識を持ってほしいと思います。
- ・とても良いことだと思います。地域の担い手として、すばらしい大人をめざす意味でも応援したいと思います。

Q4. ご感想・ご質問・ご意見・ご要望

- ・標識の設置場所などで新たな気付きがありました。若い人の発想も採り入れながら、地域防災力を高めていきたいと考えています。
- ・生徒がわかりやすく丁寧に説明してくれました。「防災＝怖い」というイメージを覆す新しい防災教育の可能性を感じました。
- ・長浜で行われるイベント主催者にも同様のツアーを実施してください。
- ・参加して良かったです。まだまだ、やることがたくさん（一般市民も）あることに気づきました。
- ・災害には、若い人の力は大切である。
- ・現場が見られ問題のない（危険ではない）所であれば、その場所で説明するのが良いと思います。（石垣の説明など）また、クイズ形式は良いと思いました。振り返りの後、どのように進むか楽しみです。
- ・実施済みかもしれませんが、海岸より時間を計りながら避難訓練も実施してみてください。

今後取り組むべきこと

本取り組みは、生徒の防災意識を向上させることを目的として実施した。生徒の振り返りアンケートからは非常に満足の得られる結果となった。

今回は、生徒がインプットした知識をもとに、生徒たちの「津波による被害を減らしたい」という思いをスタートとして企画し、結果的に「ひなんのススメ」という形でアウトプットする場面を設定した。生徒の学びから引き出される思いを尊重したかたちとなったわけだが、いくつかの課題が見られた。

まずは、静岡県では「南海トラフ」「相模トラフ」など複数の場所を中心とした大きな地震が想定されている。その中で今回は熱海市が面している相模湾で起こるであろう「相模トラフ」を中心とした地震を想定とした津波避難を目的と「ひなんのススメ～津波避難に関する提言～」を行った。しかし、参加者へ想定が十分に伝わっていなかった面もあり、「いったいどんな地震を想定されているのですか？」と質問される場面があった。今後、同じような津波避難に関する提言を行う上で大きな改善点であると思われる。

また、今回の「ひなんのススメ～津波避難に関する提言～」には、地元の上多賀地区の自治会長・副会長様や静岡県・熱海市の防災関係の担当者様、多賀小学校の先生方など多くの方に参加していただいた。しかし、実際に津波が発生した際には幼稚園生や小学生など防災に関する知識の乏しい世代の避難が難しくなると思われる。したがって、幼稚園生や小学生を対象とした防災講座を熱海高校生が実施するなど別の形をとることもできるのではないだろうか。さらに、上多賀地区の中でも特に長浜海岸周辺のツアー実施であったが、郵便局や商業施設の多い下多賀地区や網代地区など他地区での開催も可能となるのではないだろうか。

しかし、令和2年度は、「理科課題研究」の科目選択者が定員に満たなかったために開講されない。そのため、全く同じ形での実施が不可能である。考えられる方法としては、熱海ラボで熱海市役所の危機管理課と連携を図るなどが必要となるだろう。

家庭科 <熱海食育カレンダー>

対象生徒：「フードデザイン」授業選択者（3年生14名）
指導教員：森山春花

取り組みの概要

熱海高校は熱海市内唯一の高等学校として、地域に親しまれている。熱海は伊豆半島の東に位置し、海と山に恵まれた自然豊かな風土である。別荘地や観光地として発展してきた熱海は魚介やみかん、緑茶といった様々な特産品に恵まれている。このような熱海の恵まれた地域資源を高校生の立場から利活用し、地域に還元できないかと考え、熱海、伊豆地域の食材を使用した調理法の開発を行った。高校生ならではの献立を提案することで熱海、伊豆地域の特産品の魅力をより多くの人に発信し、また地域の方々にもその良さを再発見してもらうことを目的とした。

さらに、高校生の取り組みを「食育」という視点から地域活性化に繋げるために、レシピ集ではなくカレンダーという形式にし、「熱海 食育カレンダー2020」を製作した。カレンダーとして日頃から目に付く場所に掲示してもらうことで、日常的に家庭や学校で子どもと食について話したり、地域の特産品を味わったりするきっかけになるのがねらいである。

取り組んだこと

1 学期

- ◇隔週で行う調理実習を通して、基本的な調理技術の育成
- ◇熱海や伊豆地域の特産物を利用した献立作成
 - ・レシピ集ではなくカレンダーとするために、14名の生徒を4つの班に分け、1班につき3ヵ月分の献立を作成。
 - ・料理本やインターネットなどを参考にし、季節や行事に合う料理を検討。

2 学期

- ◇9/17（火）熱海市食育団体の方を外部講師として招いての調理実習
- ◇9/24（火）作成した献立の試作

作成した献立通り調理し、試食を行う。
味付けや調理工程、分量などが適切かを確認し、再検討。



◇10/1（火）カレンダーの入力作業①

9/24（火）の試作を通しての最終的なレシピとそれに関するコメント、食や生活に関する記念日を調べて入力。

◇10/23（水）カレンダー用写真撮影

カレンダーに載せる最終的な献立を調理し、写真撮影。
美味しそうに見える盛り付けやテーブルコーディネートを考える。

◇11/5（火）カレンダーの入力作業②



取り組みの成果

「熱海 食育カレンダー2020」はA4判で、見開きの月めくりとした。配布先は熱海市内の小中学校や伊東市の中学校、県内の高等学校などとし、4月始まりで、毎月の季節に合った献立12品を写真とともに掲載した。A4判の上部を献立、下部を日付けとし、日付けには食や生活に関する記念日も掲載した。

カレンダーは150部製作し、熱海市内の小中学校11校、伊東市内の中学校5校、県内の県立高等学校89校、熱海市内の食育推進団体などに配布した。また、2020年1月29日（水）発行の熱海新聞にも掲載していただいた。

今回のカレンダー作成は生徒の次のような資質・能力の育成につながったと考える。

（1）献立作成能力

3～4名の班で3品の献立作成を行った。生徒は1学期から隔週で調理実習を行っており、基本的な調理技術を身に付けてきた。今回は季節に合った献立であること、熱海や伊豆の特産品を使っていることを条件に、初めて献立作成を行った。担当する月に合うような献立のイメージから使用する食材を選び、高校生ならではのアイデアで調理方法を考えた。その後の試作を通して、「思っていたより食べにくい」「見た目をもっと良くしたい」などの気づきを得て、改善に繋げることができた。

（２）他者との協働性

生徒はカレンダー作成において、基本的に班ごとに活動を行った。その内容は、材料の分量を調べたり、初めて見た人でも作れるように分かりやすい作り方を考えたり、担当月の食や生活に関する記念日を調べたり、美味しそうに見えて季節感を感じられる盛り付けやテーブルコーディネートを考えたりと様々である。班活動の中で自然と役割分担が生まれ、それぞれの担当を責任持って取り組もうとする姿が多く見られた。

また、今回は班ごとの活動がメインであったが、試作の際には他の班にも試食してもらい、アドバイスを求める姿も見られた。班の組み方は生徒に任せたため仲の良い生徒同士の班が多く、話し合いや授業外でのやり取りはスムーズであったが、班によっては調理技術に偏りがあったところもあった。

（３）PDCA サイクル

生徒はカレンダー作成のために、「献立作成」「試作」「献立の修正」「最終調理・撮影」といった流れで取り組んできた。それは、P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）に当てはまると考える。目標達成に向けて様々な調節をしながら行動するという経験を、今回のカレンダー作成で得たと考える。

（４）地元や地域の食への興味関心

生徒はカレンダー作成に当たり、熱海や伊豆の特産品を探すことからスタートした。調べていくうちに、熱海には海のものだけでなく山のものもあり、「これも熱海の特産品だったんだ」と気づく生徒が多かった。献立作成を進めるうちに、なぜ熱海や伊豆でそのような特産品が有名であるのか、またどのような調理方法があるのかなど自然と興味を持った様子であった。

献立を考えるうちに、地元料理にも関心を持つ生徒もいた。例えば伊東市で食される「ちんちん揚げ」という地元料理を取り上げ、カレンダーで紹介する班もあった。生徒はこのような調べ学習を通じて、知っているようで知らない地元の食文化について関心を深めたようである。

「熱海 食育カレンダー2020」表紙





Atami High School

4月 アジのカツサンド



■材料（4人分）

アジ 3枚卸し4切れ
薄力粉 適量
卵 適量
パン粉 適量
揚げ油 適量

フランスパン 1本
練りわさび 少々
マヨネーズ 大さじ4
サニーレタス 3枚程度
バター 少量

■作り方

- ①アジの切り身に薄力粉を薄くまぶし、溶き卵にくぐらせ、パン粉をつけて油で揚げる。
- ②フランスパンを4等分した長さに切り、パンに切れ目を入れる。切れ目の両面にバターを塗る。
- ③マヨネーズとわさびを混ぜる。（辛さはお好みで）
- ④パンにレタスとカツをはさみ、③のわさびマヨネーズを添えて完成。

熱海高校生のコメント

伊豆で採れるアジを、「サバサンド」風にアレンジしました。
同じく伊豆特産のわさびを使ったわさびマヨネーズとの相性も抜群！

担当：小黑匠汰、森真宙、小林空也

4 APRIL

2020

月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat	日 Sun
30	31	1 釜飯の日	2 しゃぶしゃぶの日	3 いんげん豆の日	4 あんぱんの日	5 ヘアカットの日
6 コンピーフ記念日	7 世界保健デー	8 すき焼きの日	9 美術展の日	10 ほうとうの日	11 しっかりいい朝食の日	12 豆腐の日
13 喫茶店の日	14 オレンジデー	15 よい子の日	16 女子マラソンの日	17 いなり寿司の日	18 よい歯の日	19 地図の日
20 青年海外協力隊の日	21 漬物の日	22 よい夫婦の日	23 乳酸菌の日	24 植物学の日	25 歩道橋の日	26 よい風呂の日
27 哲学の日	28 シニアの日	29 昭和の日	30 図書館記念日	1	2	3 憲法記念日


Atami High School

7 月 しらすとアスパラの大葉レモン s p ★



■材料（2人分）

パスタ	200g
しらす	100g
大葉	2枚
アスパラ	4本
万能ねぎ	40g
レモンスライス	2枚
レモン汁	10g
ニンニクチューブ	10g
オリーブオイル	30g

■作り方

- ①大きな鍋で湯をたっぷりとし、塩大さじ1（分量外）を加えてパスタを茹でる。
- ②ザルにあげて流水で洗い、水気を切る。
- ③アスパラを5cmの長さに切り、茹でる。
- ④レモン汁、ニンニクチューブ、オリーブオイルを混ぜ合わせ、パスタに和えてお皿に盛る。
- ⑤茹でたアスパラ、千切りにした大葉、小口切りにした万能ねぎ、スライス切りにしたレモン、しらすをパスタの上に盛る。

熱海高校生のコメント

熱海発祥と言われるレモンを使用し、見た目を華やかに！レモンや大葉を入れているので、さっぱりとした味で夏にぴったりです。

担当：鈴木里菜、田中奈々子、
田村陽菜乃、山本桃彩

7 JULY

2020

月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat	日 Sun
29	30	1 こころの日	2 うどんの日	3 ソフトクリームの日	4 梨の日	5 あなごの日
6 サラダ記念日	7 七夕	8 黄屋の日	9 泣く日	10 納豆の日	11 世界人口デー	12 洋食器の日
13 生命尊重の日	14 ゼラチンの日	15 ファミコンの日	16 虹の日	17 国産なす消費拡大の日	18 北海道清酒の日	19 スーパーウーマンの日
20 ハンバーガーの日	21 自然公園の日	22 ナッツの日	23 海の日	24 スポーツの日	25 かき氷の日	26 幽霊の日
27 スイカの日	28 菜っ葉の日	29 白だしの日	30 梅干しの日	31 パラグライダーの日	1	2



Atami High School

2月 伊豆のみかんタルト



■材料（18cm タルト型1つ分）

タルト台（直径18cm）1個（市販品を使用）

みかん 3～4個
牛乳 200ml
卵黄 2個
小麦粉 大さじ1と1/2
砂糖 20g
バニラエッセンス（お好みで） 2～3滴

■作り方

【電子レンジでカスタードクリーム作り】

- ① 耐熱容器に牛乳と砂糖を入れて600wの電子レンジで1分温め、砂糖を溶かす。
- ② 別の耐熱容器に卵黄を入れ、①の牛乳を50mlほど加えて泡立て器で混ぜる。
薄力粉も加え、ダマにならないように混ぜる。
- ③ ②に残りの牛乳を全て加えて混ぜ合わせる。
- ④ 600wの電子レンジで4分加熱する。途中、2、3回取り出してよく混ぜる。
- ⑤ 完成したらバットに移し、ラップをぴったり付けて冷ます。

【仕上げ】

カスタードクリームが冷めたらタルト台に流し入れ、皮をむいたみかんを並べる。

熱海高校生のコメント

伊豆特産のみかんを使用しました。
電子レンジで簡単にカスタードクリーム
が作れるので、ぜひ作ってみてください！

担当者：石原美有、稲葉萌、大島玲夢、小川冬柚海

2 FEBRUARY

2021

月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat	日 Sun
1 においの日	2 みかんの日	3 大豆の日	4 妊娠の日	5 チーズケーキの日	6 ロールケーキの日	7 鮎の日
8 カレーパンの日	9 肉の日	10 パンケーキの日	11 建国記念日	12 黄ニラの日	13 気配りの日	14 煮干しの日
15 お菓子の日	16 天気図記念日	17 減塩の日	18 禁煙運動の日	19 大塩平八郎の日	20 ワインの日	21 食糧管理法公布記念日
22 おてんの日	23 天皇誕生日	24 大塩平八郎の日	25 削り節の日	26 ブルーンの日	27 ツナの日	28 ビスケットの日
1	2	3	4	5	6	7

熱海高 3 年生

食育カレンダーを初製作

市内外小中高に配布「家庭で作って」



完成した「熱海 食育カレンダー」を手に喜ぶ 3 年生＝熱海高

熱海高の選択家庭科「フードデザイン」を学ぶ 3 年生 15 人が、地域の特産食材を活用した調理法を開発、12 品の献立を紹介する「熱海 食育カレンダー」を初めて製作した。28 日、地域の学校や関係団体などに配布を開始した。

特産食材で献立 12 品

思われた地域資源である特産食材の魅力を発信するとともに、地域の人たちに再発見してもらうのが目的。本年度の授業で、15 人が 4 班に分かれて 3 品ずつ献立を考案した。レシビ集ではなくカレンダーにしたのは、目につく場所に掲示することで日常的に地域の食について会話を「食育」のきっかけにしたいという思いを込めた。

献立は、熱海で栽培が始まったとされるレモンをはじめ、生産量日本一のダイダイ、アジなどの魚介類、伊豆地域の特産の深蒸し茶、イチゴ、ミカンなどを使用。スパゲティ「しらすてアスパラの大葉レモン SSP スパ」、粟子「だいたいビル」、サンドイッチ「アジのカッサン」など、完成品写真入りで作り方を月ごとに紹介している。

「食育カレンダー」は、森山香花・家庭科主任は「レモンの炊き込みみそ飯など高校生らしい献立にこだわりたい」と話した。150 部印刷した。市内の小中学と関係団体、伊東市の中学、県内の高校などに配る。森山香花・家庭科主任は「レモンの炊き込みみそ飯など高校生らしい献立にこだわりたい」と話した。



市長賞に柏木さん (2 年)

年賀はがきコンテスト 入賞者 6 人を表彰

熱海ワイズメンズクラブ (深沢勇弘会長) は 27 日夜、中学生を対象にした「年賀はがきコンテスト」の表彰式を熱海市春日町の KKK ホテル熱海で開いた。市長賞に輝いた柏木さん (2 年) は、表彰式には会長や来賓、審査員ら約 40 人が出席した。あいさつで深沢会長は「素晴らしい作品が多く集まった。メールなど SNS でのやり取りが多い時代だが、手書きの温かみの



熱海新聞

熱海市中央町 19-14
コルト山ビル 1F
〒413-0015

電話 0557 (81) 0648
FAX 0557 (83) 3553

伊豆新聞本社

〒414-0054
伊東市鎌田 1290-6
電話 0557 (36) 1234

伊豆新聞デジタル

<https://digital.izu-np.co.jp>

総合設備エンジニアリング

- 冷凍・冷蔵設備
- 総合厨房設備
- 空調換気設備
- ステンレス製品製作
- 保守メンテナンス

技術・人・創造
山田冷機
TEL.0557-83-2113

伊豆の天気

旧 1 月 6 日	伊豆	あすの天気
日出 6:44	満潮 8:13 19:32	最高 11.1 12.0 11.3
日入 17:09	干潮 1:29 13:58	最低 4.7 5.8 4.9
日出 9:48	満潮 8:43 20:10	
月入 21:59	干潮 2:04 14:34	
月齢 5.2	満潮 8:46 20:18	
	干潮 2:07 14:41	
	満潮 8:46 20:18	
	干潮 2:07 14:41	
	満潮 8:46 20:18	
	干潮 2:07 14:41	

きょう 西の風やや強く海上では西の風強く曇り後晴れ明け方まで雨

網代	石廊崎	三島
最高 18	16	18
最低 10	11	9
降水確率 (%)	6→12→18→24	10 0 0

あす 西の風やや強く後強く曇り時々晴れ

最高 16	最低 7
降水確率 30%	

今後取り組むべきこと

今回は 150 部印刷し、熱海市内の小中学校や伊東市の中学校、県内の高等学校、熱海市の食育団体などに配布したが、新聞にも掲載していただいたことで、もっと多く配布してほしいとの声をいただいた。よって、次年度の作成では発行部数を増やし、より多くの団体への配布を検討したい。さらに、熱海駅での配布や地元企業などへの配布、学校ホームページへの掲載による無料ダウンロードなども検討したい。

カレンダーの内容に関しては、次年度以降は次のような点について検討し、さらなる充実を目指したい。

- (案 1) 献立の栄養価を計算して記載する。
- (案 2) 献立で使用した地元食材について、その栄養価や調理上の特性を記載する。
- (案 3) 地元企業とコラボし、地元食材や商品を使用して献立作成を行う。
- (案 4) 調理の動画を撮影し、カレンダーに載せた QR コードを開くとその動画が見られるようにする。

ボランティア部

対象生徒：ボランティア部生徒
指導教員：浅井啓天・芦川正幸

地域連携実施協力者
熱海市内、伊東市内の福祉施設／
ドルフィンズ／学童保育多賀っこクラブ

取り組みの概要

普段は週3回のペースで校内外の清掃活動や手話の練習を行っている。休日は月に2回の頻度で地域でのボランティア活動（福祉施設を中心）を行っており、受け身のボランティアではなく主体的なボランティアとなるように意識して活動している。また、継続的な関係を築くことを意識しながら、地域に根差し貢献できるような活動を積極的に行おうという考えから、今年度は学童保育「多賀っ子クラブ」や静岡少年少女センター「ドルフィンズ」へ定期的に参加し、様々な活動を通して児童との交流を深めた。加えて手話の学習を通して障がい者の方への理解を深めるなど、様々な面で地域の役に立てよう活動した。

今年度は3年生と1年生が多いことから「地域ボランティア活動を通して、幅広い年齢層との交流を深め、自己実現と奉仕活動の意義を体感する」という基本方針のもと「受け身のボランティア活動から主体的なボランティア活動を行えるようになる」という目標を叶えるように日々活動をした。結果は、3年生がボランティア先で求められる以上の成果を上げることができた一方、1、2年生に対する期待度が高くなるということが起きた。

取り組んだこと

校外での活動は【年に一度行うもの】と【年度内に定期的に行うもの】がある。また活動の種類としても〔子ども（学童）関係〕〔養護施設関係〕〔障がい者関係〕〔清掃関係〕に分けることができる。福祉コースがある関係で養護施設関係のボランティア活動が多かったが、本年度より子ども（学童）関係のボランティア活動を増やすことにした。

【年に一度のもの】

〔子ども（学童）関係〕

- 「はばたき 児童フェスタ 2019」

日時／場所 令和元年5月6日（月）／
福祉センター「はばたき」

内 容 着ぐるみを来て劇の勧誘、落書きせんべいやミニゲームの手伝い



〔養護施設関係〕

- 「十字の園 春のふれあい祭」

日時／場所 令和元年5月26日（日）／ 伊豆高原十字の園

内 容 出店販売の手伝い



○「奥野苑納涼祭」

日時／場所 令和元年6月9日（日）／ 特別養護老人ホーム 奥野苑

内 容 物品運搬と売り子の手伝い



○「姫の沢荘納涼祭」

日時／場所 令和元年7月28日（日）／

姫の沢荘

内 容 ゲームブースやフランクフルト、
綿あめ販売などの手伝い

○「いとうの杜祭り」

日時／場所 令和元年9月22日（日）／
介護老人保健施設いとうの杜

内 容 出店の販売手伝い



○「ゆずの里祭り」

日時／場所 令和元年10月20日（日）／
特別養護老人ホーム ゆずの里

内 容 出店の販売手伝い



○「海光園 Sunday ふれ愛 day」

日時／場所 令和元年10月20日（日）／
介護老人福祉施設 海光園

内 容 出し物ブースの手伝い、
泉ちゃんゼリーと桜まんじゅうの販売

[障がい者関係]

○「ともみの会 やったね おむすびだよ～」

日時／場所 令和元年6月2日（日）／
湯河原町 保健センター

内 容 障がい者の方と一緒にむすび作り、
熱海高校生考案のゲーム



○「碧の園・ひだまり秋祭り」

日時／場所 令和元年9月22日（日）／
碧の園駐車場

内 容 出店の販売手伝い

[清掃関係]

○落書き清掃ボランティア

日時／場所 令和元年12月26日（木）／ お宮の松

内 容 壁に書かれた落書きを地域の方と一緒にペンキで消す

【年内に定期的に行うもの】

〔子ども（学童）関係〕

○たがっ子クラブ夏休み・春休み

日時／場所 令和元年7月26日（金）～8月24日（土）／ 多賀小学校学童保育室
内 容 学童で集まった子ども達と勉強をしたり、遊んだりする

○ドルフィンズ

日時／場所 ①平成31年4月21日（日）／ 姫の沢公園
②令和元年5月12日（日）／ 鹿ヶ谷公園
③令和元年6月16日（日）／ いきいきプラザ
④令和元年9月15日（日）／ 熱海健康福祉センター
⑤令和元年11月17日（日）／ 網代小学校
⑥令和元年12月22日（日）／ 総合福祉センター
⑦令和2年2月9日（日）／ 静岡市清水区大手町自治会館
⑧令和2年2月23日（日）／ いきいきプラザ

内 容 ①子ども達と姫の沢公園でアスレチック遊び
②熱海山奥の公園で探索と沼遊び+ロープでブランコ作り
③子ども達と室内遊び（電気ナマズ、自己紹介ゲーム etc）
④子ども達と室内遊び（ジャンケン鬼、がっちゃん etc）
⑤子ども達と体育館遊び
⑥子ども達とクリスマスケーキとカレー作り+プレゼント交換
⑦指導員方のポスターセッションの見学
⑧子ども達とパン・お菓子作り



〔清掃関係〕

○通学路清掃

日時／場所 部活動内で定期的に実施
内 容 通学路のゴミ拾い、落ち葉清掃 etc



取り組みの成果

(1) 継続という信頼

今年度参加した「年に一度」のボランティアは、3年以上続けて依頼が来ているものが8件、昨年より依頼が来ているものが2件であり、今年初めて参加したものはなかった。中には「ともみの会」のような10年以上続けているものもある。長くかかわっているボランティアでは「ここからお願いします」「何時ものようにお願いします」といった声掛けを良くされる。これは毎年参加することで「熱海高校さんはこういう事をしてくれる」という考えが定着しているからだと考えられる。そしてその信頼に生徒たちがしっかりと答えることができているからこそ依頼が続いて来ていると感じる。

こちらが継続することで信頼を得、信頼されているからこそ依頼が来る。そんな関係を築くことができているため、これを崩さずに続けていきたい。

(2) 1年生の成長

入学当初、9人の1年生部員に目標を書かせた。その時「興味のあるボランティア」「部でしてみたいこと」という項目を「なし」と答えた生徒が5人いた。しかし年間反省では「興味の持てたボランティア」という部分で全員が具体的に書いてきた。「難聴の人と初めて活動した。うまく話せず悔しかったので手話の勉強をしたい」「子どもと体を動かす活動」「ペンキ塗りで街をきれいにする」といった感想が多かった。また、活動の満足度と達成度をABCで自己評価させたところ全員がB以上をつけ、Aをつけている生徒が3分の1ほどいた。このことから、ボランティア活動を通して生徒の興味関心の幅が広がり、具体的なビジョンを持てるようになったこと、様々な人と交流し役立てた経験を通して自己肯定感が伸びたのだと考えられる。

今後取り組むべきこと

ボランティア活動と一言で言っても様々な活動がある。一つの分野に偏ることなく、多くの経験をつめるように多くの人たちと活動していきたい。また、年度内に定期的に行うボランティアを通して地域とのかかわりをさらに深めたい。そのために、生徒自身が「何をしたいのか」「どうすれば実現できるのか」を考え、自分たちでボランティア活動を企画し、関わりを持った人たちと協力することで実現できるようにしていきたい。

